

JIS

化学製品の色試験方法—
第1部：ハーゼン単位色数
(白金—コバルトスケール)

JIS K 0071-1:1998

平成10年10月20日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

まえがき

この規格は、工業標準化法に基づいて、日本工業標準調査会の審議を経て、通商産業大臣が制定した日本工業規格である。

今回の制定は、日本工業規格を国際規格に整合させるために、ISO/DIS 6271:1996を基礎として用いた。

JIS K 0071:1998は、一般名称を“化学製品の色試験方法”として、次の各部によって構成する。

第1部：ハーゼン単位色数(白金-コバルトスケール)

第2部：ガードナー色数

第3部：セーボルト色数

第4部：ASTM色数

主 務 大 臣：通商産業大臣 制定：平成 10.10.20

官 報 公 示：平成 10.10.20

原案作成協力者：社団法人 日本化学工業協会

審 議 部 会：日本工業標準調査会 化学部会 (部会長 三田 達)

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部材料機械規格課(☎100-8921 東京都千代田区霞が関1丁目3-1)にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

化学製品の色試験方法—

K 0071-1:1998

第1部：ハーゼン単位色数

(白金—コバルトスケール)

Testing methods for colour of chemical products—

Part 1 : Estimation of colour in Hazen units (platinum-cobalt scale)

序文 この規格は、1996年に提案された ISO/DIS 6271, Clear liquids—Estimation of colour by the platinum-cobalt scale を基に作成した日本工業規格であり、技術的内容を変更することなく作成しているが、日本工業規格として必要な規定内容を追加している。

なお、この規格で点線の下線を施した箇所は、原国際規格にはない事項である。

1. 適用範囲 この規格は、常温で液体の化学製品、又は加熱して熔融状態になる化学製品の色を試験する方法について規定する。この試験方法は、ハーゼン標準比色液と類似の色調をもつ透明液体に適用する。

備考1. 化学製品とは、化学反応によって生成する物質全般をさすが、個別の製品又は製品群の規格において、この規格と異なる測定方法が規定されている場合には、その規格に規定する方法による。

2. 化学製品には、揮発性、爆発性、放射性などが強いために、この規格を用いるとき試験の安全を確保できないものもある。この規格に規定する方法は一般的な方法であり、あらかじめ安全性を十分に確認できるものに適用する。

2. 引用規格 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版を適用する。

JIS K 0115 吸光光度分析通則

JIS K 0211 分析化学用語(基礎部門)

JIS K 8129 塩化コバルト(II)六水和物(試薬)

JIS K 8163 ヘキサクロロ白金(IV)酸カリウム(試薬)

JIS K 8180 塩酸(試薬)

JIS P 3801 ろ紙(化学分析用)

JIS R 3503 化学分析用ガラス器具

JIS Z 8716 表面色の比較に用いる常用光源蛍光ランプ D₆₅—形式及び性能

ISO 3696 Water for analytical laboratory use—Specification and test method

3. 原理 液体の化学製品及び加熱して熔融状態となった試料の色を、標準比色液と目視で比較し、その結果をハーゼン単位色数として表示し、記録する。

4. 用語の定義 この規格で用いる用語の定義は、JIS K 0211によるほか、次による。

a) **ハーゼン単位色数** 1 l中にヘキサクロロ白金イオンの形態で1 mgの白金と、塩化コバルト(II)六水和物2 mgを